

令和4年度事業計画



特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺
ショートステイ オレンジタウン笠寺
オレンジタウン笠寺 デイサービスセンター
特別養護老人ホーム オレンジタウン笠寺Ⅱ
ケアプランセンターオレンジ(居宅介護支援事業所)

1. はじめに

令和4年度は法人設立から9期目、特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺開設から7期目を迎える。特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺Ⅱは4期目を迎える。

当法人が所在する名古屋市南区は令和3年度に高齢化率が30%を超え、名古屋市内16区の中で最も高い。令和4年度は第8期「介護保険事業計画」「高齢者保健福祉計画」の中間年ではあるが、介護保険制度の持続可能性の維持の観点からも、地域包括ケアの深化・推進のための地域づくりが進むとともに、介護保険事業の経営はますます厳しさを増すと予想される。

社会福祉法人善常会の理念である「住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らし続けられる町づくりをめざして」を具現化すべく、地域に愛され、地域から必要とされる存在となれるようアプローチを継続したい。

同時に社会福祉法人として、中長期にわたり安定的に運営できる体制づくりを進めていきたい。

一昨年来、新型コロナウイルス感染症により、事業計画に位置付けられた感染予防策をはじめとした様々な対応を実施しているが、法人内にウイルスを持ち込まず、拡げない取組みを継続し、感染症BCPの策定など適切に対応する。

以下の取り組み課題については、中長期的なビジョンに立ち、構築、実行が必要な事柄もあり、内容によっては複数年度で取り組むこととする。

2. 善常会ビジョン（令和3年度策定）

私たちは住み慣れた地域で暮らし続けられるまちづくりを目指します

3. 基本方針

(1) 地域に根ざし、地域包括ケアシステムの一端を担う

重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後までつづけることができるよう、地域社会と連携して町づくりに参画していく。

(2) ICFモデルの視点に立ったケアの提供

利用者の生活歴や生活機能の把握に努め、「している“活動”」の向上を目指し、結果として「その方らしい生活」を提供していく。

4. 行動指針 —私たちの行動3か条—（令和1年度策定）

私たちはその人らしい暮らしをサポートします

私たちは常に温かく支えあうチームを目指します

私たちは地域と一緒にこの町をハッピーにします

5. 主な運営方針

法人本部

当法人の各事業が円滑に運営できるよう本部機能の強化を図る。またコーポレートガバナンスを推進する。

(1) 組織文化の醸成（自律した職員の育成）

理念の浸透への取り組みを継続し、自律した職員の育成、職員が「善常会で働く意味」を感じられる組織文化の醸成を引き続き目指す。

・勤怠システムの更新（予算：770千円）

勤怠管理、人材育成（人事考課含む）にシステムを導入し、タイムレコーダーを廃止し、電子での届出とする。事務負担の軽減ならびに育成のシステム化、見える化を行う。（前年度からの繰り越し）

・職員人事制度設計導入

現在、職能要件、等級制度、昇格要件が明確化されておらず、昇給も一律であり、優れた人材が流出する状況にある。人事制度を構築することで、キャリア形成が仕組化された働き甲斐のある職場を目指す。なお本事業は医療法人と協働して行う。

・人材の安定的な確保に向けた取り組み

就労人口が減少し、介護人材の不足が深刻化する現在、必要な人材の確保ができるよう、新卒者採用に向けては、実習生の受入など教育機関との連携を密にし、既卒者採用に向けては、就職イベントへの参画など積極的な採用活動を行う。

(2) 災害対策

・非常用発電機および油庫の設置（予算：11,550千円）

災害時でも3日程度は最低限の電力が確保できるよう、オレンジタウン笠寺に非常用発電機ならびに油庫を設置する。設置にあたっては補助金の活用を前提とする。（前年度からの繰り越し）

・BCPの策定

大規模災害や感染症が発生した場合であっても、必要なサービスが継続的に提供できるよう「BCP（事業継続計画）」を策定し、研修及び訓練を実施する。

・笠寺学区と地域防災協力事業所の覚書を締結し、地域との協力体制を構築する。

（コロナ禍のため前年度からの繰り越し）

(3) 事業運営の透明性の向上

・主にホームページを活用して情報発信を行う。ステークホルダーのニーズに応え得る情報をスピーディーに発信できるよう、随時内容を更新していく。

オレンジタウン笠寺

(1) 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

・プロジェクトチーム（Let'sRebornProject）の活動を継続し、計画的かつ段階的に課題解決を図っていく。

- ・暮らしの継続を意識したケアマネジメント

ユニットケアの基幹となる 24 時間シートの拡充を図り、一人ひとりの想いに寄り添ったケア、その方らしい暮らしの実現ができることを目標とする。

- ・職員間の情報共有、ケア方法の統一

現在の経時記録を SOAP 記録へ変更し、入居者本人主体の記録とし、記録の共有を円滑にする。またカンファレンスでの一層の情報共有、ケア内容の標準化を目指す。

- ・看護職員の 24 時間配置

医療的ケアへの取り組みは一定の成果が得られるようになった。今後も 24 時間配置を継続できるよう看護師の人材確保と質向上に努める。

- ・「活動」「参加」の推進

当法人の基本方針にもある ICF の視点に立った「活動」は、生活期においてその効果や、その人らしい暮らしの支援で重要となる。

コロナ禍においても「活動」を提供できるよう、個別や小集団活動など、個別性をもった活動を提供できるよう、その人の生活歴を把握し、多職種で連携して実施していく。デイサービスでは活動の充実のため、オープンレンジを購入する。

(予算：121 千円)

- ・科学的介護の推進

日常的にリハビリの視点、技術を生かしたケアができることを目指し、多職種でアウトカムを出し、科学的介護に反映できる施設を目指す。

- ・ユニット冷蔵庫の買替え

日本ユニットケア推進センター指導のもと、ユニットケアの在り方に沿った共同生活室の設えを見直している。(予算：726 千円)(前年度一部実施)

- ・名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

(2) 自律した職員の育成

- ・組織文化の醸成

昨年度作成した、職員手帳(ハウスルール)を展開し、定着を図る。善常会マインドのある自律した職員の育成に取り組む。

- ・教育体系の策定

キャリアステージに合わせた教育が実施できるよう、外部研修に積極的に参加させ、モチベーション向上とともに、自己覚知につなげる。

- ・EPA 介護福祉士候補者、技能実習生等外国人スタッフの教育

一昨年度よりコロナ禍により外国人スタッフの入国が停止している状況にある。今年度は入国が再開予定のため、その対応、育成にあたる。

- ・職員の負担軽減と安全なケアの提供

現状、夜勤は 16 時～翌日 10 時までの 2 勤務夜勤だが、職員の負担軽減ならびに不適切ケアの予防のため、日本ユニットケア推進センターが推奨する 22 時～翌日 7 時までの 1 勤務夜勤へと順次移行する。

(3) 地域社会との共生

・高齢者サロンの開催

昨年度は予定していたサロンがコロナ禍により、全く開催できなかった。

開催ができる状況になれば、引き続き地域に気軽に活用いただける場所、人材を目指す。

(4) 安定した経営基盤の確立

オレンジタウン笠寺拠点の収入合計 540,021 千円、事業活動資金収支差額 67,698 千円（対収入比 12.5%）を計画している。

①特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺（定員 80 名）

財務基盤の安定化と、医療ニーズの高まりに伴う入院者の状況を鑑み、97%の稼働率（1 日当たりの平均実利用者数 77.6 名、年間延べ利用者数の見込み 28,324 名）で計画、事業活動資金収支差額は 50,460 千円（対収入比 11.8%）を予定する。

②ショートステイオレンジタウン笠寺（定員 10 名）

在宅での暮らしを支える社会資源として、極力有効に活用いただけるよう、原則として長期間のショートステイの受入れは行わず、真の在宅支援ができるよう運営していく。また、特養において入居者の入院加療による、空床のショートステイ利用を促進し、90%の稼働率（年間延べ利用者数の見込み 3,285 人）で計画、事業活動資金収支差額は 6,477 千円（対収入比 12.5%）を予定する。

③オレンジタウン笠寺デイサービスセンター（定員 30 名）

1 日あたり 20 名（年間営業予定日数 311 日、延べ利用者数の見込み 6,220 人（総合事業を含む））で計画し、事業活動資金収支差額は 10,761 千円（対収入比 17.4%）を予定する。

オレンジタウン笠寺Ⅱ

(1) 利用者の尊厳を守り、自立支援に向けたサービスの提供

・暮らしの継続を意識したケアマネジメント

今年度も、ユニットケアの理念である「暮らしの継続」を目指し、24 時間シートをよりいっそう充実し、活用することにより、入居者一人ひとりにあったケアの実践を目指す。

・職員間の情報共有、ケア方法の統一

施設運営情報システムを活用し、適時適切に記録するとともに、「MeLL+」を利用し連絡・報告等を円滑にすることで、情報共有を図る。

カンファレンス等で一層の情報共有を図り、その結果を 24 時間シートに反映させる等により、ケア方法の統一を目指す。

・余暇活動の充実

機能訓練指導員が増員され、日常生活の介護に専門的な視点を活かせる体制を構築しつつあるが、4 年度はさらに発展させ、入居者の好みにもあわせた余暇活動の充実を図る。個人あるいは小集団で楽しく取り組める活動を行い、QOL の向上を目指す。

- ・科学的介護情報システム（L I F E）の利用

LIFEには当初から登録し、データ提出等を行っているが、4年度は、新たに「排せつ支援加算」と「科学的介護推進体制加算」の年度内の算定を目指す。

- ・名古屋市自己評価・ユーザー評価事業への参加

自らのサービスの質を評価することで、課題抽出、解決へとつなげる。

（2）人材確保と定着

- ・EPA介護福祉士候補者等外国人スタッフの教育

昨年度、初めて「EPA介護福祉士候補者」1名を受け入れたが、今後も受け入れを予定しており、資格取得に向け支援する。支援にあたっては、他の外国人スタッフも含め、その国の文化や慣習の違いにも配慮する。

- ・職員の育成

個別ケアの実施に必要な24時間シートについて、現場の全職員がその目的を理解した上で作成し活用できるよう教育指導する。

またキャリアに応じた教育として、外部研修に積極的に参加させ、知識・技術の習得だけでなく、モチベーションの向上とともに、自己覚知につなげる。

- ・職員の負担軽減と安全なケアの提供

職員の腰痛予防、負担軽減を目的として、ノーリフティングケアに取り組んでいるが、今年度新たにチームを立ち上げる。

このノーリフティングに関するチームは、多職種で構成し、各職種が研修等により知識・技術を習得し、それぞれの視点から意見を出し合い、入居者にも職員にも負担が少なく安全なケアの提供を目指すとともに、最終的には、ケアの標準化及び職員の定着につながることを目指す。

また、勤務時間等についても、職員の身体的・精神的な負担軽減につながるよう見直しを継続する。

（3）安定した経営基盤の確立

①特別養護老人ホームオレンジタウン笠寺Ⅱ（定員80名）

今年度は97%の稼働率（1日当たりの平均実利用者数77.6名、年間延べ利用者数の見込み28,324名）で計画、事業活動資金収支差額は57,653千円（対収入比13.8%）を予定する。

なお、入居者の医療ニーズが年々高まっており、入居者の入院による空床を短期入所利用で活用することを促進し、上記の稼働率を目指す。

②居宅介護支援事業所ケアプランセンターオレンジ（設置予定）

必要な人員を確保し、できるだけ早期の開設を目指す。